

上智大生殺害 28 年 今も背中押すあの笑顔 大学先輩「忘れない」

岩崎歩

毎日新聞 2024/9/7 06:00 (最終更新 9/7 17:38) 有料記事 1880 文字



新入生の世話をする「ヘルパー」の活動中の小林順子さん。残りの写真は遺族に渡し、冨樫信一郎さんの手元に唯一残った＝冨樫さん提供

岐路に立つと、彼女の笑顔を思い出す。会うことはできなくても、優しい瞳が今も背中を押してくれる。

出会いは、冨樫信一郎さん（51）が上智大の英語学科 2 年生だった 1993 年 10 月。翌年の新入生の面倒を見る「ヘルパー」に選ばれた。

半月形の優しい瞳

20 人ほどの在学生在が教室に集められた最初のミーティング。交際相手のことなどをざっくばらんに話す 1 学年下の女性がいた。



新入生の面倒を見る「ヘルパー」の学生たちがつけていた腕章。

冨樫信一郎さんと小林順子さんは活動を通じて出会った＝冨樫さん提供

「一緒にいると気後れしてしまい、苦手なタイプだな」。山形市から上京し、引っ込み思案だった冨樫さんが小林順子さんに最初に抱いた印象だった。

それでも、顔の似ていた人気落語家にちなんだ「志の輔」というあだ名で積極的に話しかけられた。打ち解けるのに時間はかからなかった。

姉御肌で、ヘルパーの活動を引っ張った順子さんの周りには自然と人が集まった。人の懐に臆さず飛び込む大胆さの一方で、半月形の瞳はいつも優しくほほえんでいた。

順子さんは「世界で通用するジャーナリスト」を目指していた。海外で暮らした経験がな

いのに、帰国子女が集まる英語のトップクラスに在籍。富樫さんは「並々ならぬ努力でその座をつかんでいた」と尊敬していた。

卒業式の日



学生時代に小林順子さんと過ごした日々を振り返る富樫信一

郎さん＝山形市で 2024 年 8 月 30 日午後 0 時 58 分、岩崎歩撮影

最後に会ったのは 96 年 3 月、富樫さんの卒業式の日だった。

交際相手と別れ、希望先に就職できず落ち込む富樫さんを気遣い、式典後に控室で待っていた。「志の輔、頑張りなよ」。いつもの笑顔で見送ってくれた。

順子さんは米シアトル大への留学が決まっていた。「頑張ってきて」とエールを送り返した。

突然の訃報が届いたのは、96 年 9 月の事件の翌朝だった。「順子さんが殺されました」。共通の知人が留守番電話にメッセージを残していた。

葬儀の前日、ひつぎに小さく納まる順子さんと葬儀場で対面した。優しい瞳は二度と開かない。



警視庁から返却されたネガフィルムに写っていた小林順子さん（1995 年 12 月

22 日撮影のもの）

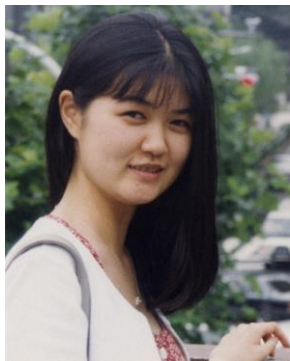
その姿が頭から離れず、葬儀当日は悲しみでひつぎに近寄れなかった。人目もはばかりず泣き崩れ、友人に支えられながら別れを告げるのがやっとだった。

当時、東京で会社勤めをしていた。放送関連の事業に活躍の場を求めるようになった。ジャーナリスト志望だった順子さんに自らを重ね合わせていた。その後も毎年のように墓参りをし、近況を報告した。

休職中に思い出したあの笑顔

2013年に故郷に戻りスポーツ団体の事務局に転職すると、墓前から足が遠のいた。3年前、職場の人間関係に悩み、心身を壊して休職に追い込まれた。

「自分が前に進んできた原動力ってなんだろう」。部屋にこもり自問すると、夢に向けてひたむきだったあの笑顔を思い出した。



大学3年時の小林順子さん＝遺族提供

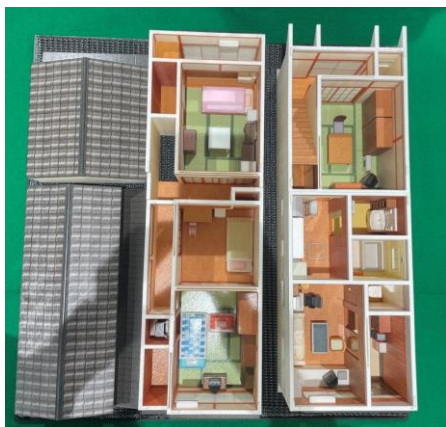
その翌年、ネット交流サービス（SNS）で、順子さんを知る同窓生を探し、一緒に墓を訪ねた。丘の上の墓地の向こうには上智大がある。「順子の分まで生きていくからね」。母校で過ごした日々を振り返り、改めて祈った。

「我々が再びつながることが、順さんが生きた証し、そして彼女の夢や思いを引き継いでいくことにもつながると思います」。山形に戻り、順さんの父賢二さん（78）に初めてメッセージを送った。

彼女の生きた証しを

その後、富樫さんは職場に復帰した。同級生とは順さんの命日の前後に連絡を取り合う。

リベラルアーツを学ぶため、東京や大阪にキャンパスがある大学院にも入学した。地元を活性化させるという諦めかけた目標に向かって歩み出した。



警視庁が三次元（3D）プリンターで作った小林順子さん宅の模型。順さんは写真左下の両親の部屋で見つかった＝東京都千代田区の警視庁本部で2024年9月3日午前10時、岩崎歩撮影

オンラインで講義を受けつつキャンパスにも時折足を運び、年代も立場も違うさまざまな仲間に率先して声をかけ、つながりを広げている。それは、かつて順子さんが母校で実践していたことだ。

あの事件から 28 年。全てを奪った犯人が憎い。一日も早く捕まってほしい。それと同じくらい、彼女の生きた証しを忘れずに生きることが大事だと思う。

「追いつけないかもしれないけど、僕は順子を一生追いつけていくよ」。迷ったら、あの笑顔が後押ししてくれる。【岩崎歩】

上智大生殺害・放火事件

1996 年 9 月 9 日午後 3 時 50 分～同 4 時 40 分ごろ、東京都葛飾区の上智大 4 年、小林順子さん（当時 21 歳）が自宅 2 階で首などを刃物で刺されて殺害された。犯人はその後、1 階に放火し自宅を全焼させた。現場には犯人のものとみられる A 型の男性の血液が残され、DNA 型も検出されている。事件のあった時間帯、現場付近では身長 150～160 センチくらいで、黒っぽいズボン、黄土色っぽいコートを着た不審な男が目撃されている。これまで 1734 件の情報が寄せられ、延べ 11 万人以上の捜査員が投入された。情報提供は警視庁亀有署捜査本部（03・3607・0110）。